

えひめを愛する vol.148

ひめっこNEWS 缶



愛媛民医連の医療と学生の動きを伝えるニュース、絶賛刊行中！！ 2024.11.12

10/29～30 長島愛生園フィールドワーク学習



10/29(火)、30(水)に岡山県の長島愛生園で、医学生のフィールドワーク学習を行いました。愛媛からは学生3名と職員1名、東京、鹿児島からも職員2名が参加しました。

まずは当時の建物の中で現地の学芸員さんから話を聞き、その後は当時の遺跡巡りや証言ビデオを視聴しました。

【感想】

- これまでハンセン病やその療養所のイメージと言えば、患者への差別という被害のイメージだったのですが、ガイドの方からあった「患者一人一人に人生がある」という言葉や、患者さんが文化活動をする居場所として療養所が機能していた面を見て、ハンセン病の歴史そのものがとても多面的なものなのだと思うようになりました。
- 収容桟橋では家族との別れの場面を想像し、胸がつまる思いでしたが、家族と隔離された状況でも逞しく生きてこられた、患者さん一人ひとりの営みが愛生園にあったことを知ることができて良かったです。
- FWを行わないと絶対知ることができなかった知識であったり、実際の景色、空気に触れることで当時の環境も想像できるのが非常に良かったです。



Topics!

看学生

10/26 たま café 能登半島地震 被災地支援報告

10月のたま café では、「能登半島地震 被災地支援報告」として4月に能登半島の現地支援に参加した愛媛生協病院・総務課長の谷さんに報告をしてもらいました。

谷さんが現地に行ったときは震災から4ヶ月が経とうとする頃でしたが「東日本大震災の時と比べて4ヶ月経っても被害を受けたままの道路や岸壁、建物が多く残っていた。地元の方の『能登は見捨てられたんよ』という言葉が衝撃的でした」と語ってくれました。

学生からは「何か月も震災当時のままだと『見捨てられた』と思うのも当然だと思う、衝撃を受けた」「現地に行かないと分からないという事を感じたし、支援側も想像力を働かせて支援を行う必要があって難しいと思った」と感想がありました。



支援時に撮影した写真



医学生

10/4 臨床推論学習会

10/4(金)に臨床推論学習会を開催し、2名が参加してくれました。

今回は“臨床推論力をつけるためのコツ”のレクチャーから入り、直感的思考と分析的思考の考え方を学びました。その後は70代の腹痛患者さんの症例から病名を考えました。

【感想】

- ・現在は医学の知識が全くないですが、患者さんの状態から病気を推定することができて非常に楽しかった
- ・関連痛の話や解剖学的な話といった大学で習ったことが、点と点が繋がるように頭の中で繋がり、他ではできないいい経験ができました。



薬学生

10/17 奨学生会議

薬害根絶デー増山さん講演・視聴

今月の奨学生会議は、8/23に東京で開催された「薬害根絶デー」の講演、増山ゆかりさんのお話をみんなで視聴して、感想交流…の予定でしたが、オンライン参加の方は、音声不具合で画像だけになってしまいました。

増山さんは、1958年から1962年にかけて使用された鎮静睡眠薬サリドマイドの被害者です。母胎内で母親が服用したサリドマイドにより、両腕がほとんど無い、肩に直接手がついている様な状態で産まれました。海外では1961年に販売が中止されましたが国内では使い続けられ、被害が拡大しました。日本では後半の方が販売量が増えているという衝撃的はお話もありました。「副作用と薬害の境目はそこにどれだけ過失があるかどうか」「製薬会社、国、医療従事者、どこかで抜け穴があるから薬害が繰り返されている」医療に携わる全員が、薬害を繰り返さないために何ができるか、考えさせられるお話でした。



サリドマイド被害者 増山ゆかりさん
私たちサリドマイド被害者は、生理にわたって多くの犠牲を払ってきました

【学生の感想】

- ・当事者だけでなく親も責任を感じて生きていくというお話を聞き、薬 増山ゆかりさん(厚労省 HP より)により、多くの人が様々な被害を受けることが起こりうる。しっかり勉強したいと思った。
- ・サリドマイドなどの事件によって障害を持って生まれてきた人たちが障害のためやりたいことができず、我慢することは間違っていると感じた。



↓お問合せはこちらまでどうぞ↓

●愛媛県民医連事務局●

Tel:089(990)8677

(松木、藤村、松野)

Mail:igakusei@ehime-med.org

